

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)(検討会への報告案)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森里海連環高津川流域 ふるさと構想特区 (益田地区広域市町村圏事務組合)	3.5	3.7 進捗度 ・路網整備と計画的施業の推進 84% ・地域資源を活用した農村定住・交流促進 55% ・高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖 101%	3.3 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 ・特定農業者による特定酒類の製造事業等 地域独自の取組 ・壊れない作業路網整備事業 ・森林資源活用事業等	3.5	・「原木生産量」については、令和2年度よりも減少したが、実績値はほぼ維持されている。「乾燥材出荷量」は、引き続き進捗率が100%未満ではあるが、年々低下傾向にあった実績値が伸び、この数年の最高を示しており、望ましい結果となっている。 ・森林の活用では、路網の整備を進めるだけでなく、製材等に仕向けることが難しい木材を地域内で活用する方法を考える必要があるかもしれない。木質バイオマスを活用した再生エネルギー施設の建設と地域への熱や電力の供給は1つの方法ではないだろうか。自治体が積極的な投資主体となることも考えてはどうか。 ・「新規就農者数」は、引き続き進捗率が100%未満であるものの、実績値は連続で増加し、望ましい結果となっている。自己評価では「コロナ禍の状況にもかかわらず」とあるが、逆に「コロナ禍の状況だからこそ」という側面がなかったか、もう少し深い分析が求められるのではないかと。 ・「特定農業者による特定酒類の製造事業」を活用したワイン事業者は、順調で、これをロールモデルとした就農者がいるとのことで、今後の展開が期待される、優良な樹園地の紹介に行政や農業委員会と連携して取り組みたい。 ・規制緩和された地域限定特例通訳案内士の活動回数は、新型コロナのない令和元年度までは大きく目標を上回っていたが、新型コロナ発生後は逆に大きく下回っている。しかしながら、この事実だけでも十分にこの地域にポテンシャルのあることを示しているため、ウイズコロナ/アフターコロナに怠りなく備えて次の状態に期待したい。